

恵泉女学園大学

出前講座

Guide Book
2010

本学教員が大学の授業を
出前します。

平和をめざす女性の大学
恵泉女学園大学

発刊によせて

私どものユニークで貴重な知的財産を 出前講座で味わってみてください。

恵泉女学園大学 学長

木村 利人



恵泉女学園は河井道というクリスチアンの女性によって1929年に創立されました。9人の生徒から始まった学園は、その後1988年には4年制大学が開設されるほどの発展をとげてきました。

恵泉女学園の教育理念を支える3本の柱は「聖書」「国際」「園芸」です。

「創造主である神を敬い、隣人を愛する」「人種、言語、宗教、風習などの偏見をなくし、世界平和に貢献する」「自然をいつくしみ、いのちの貴さを学ぶ」、これらが恵泉女学園の教育の原点なのです。

現在、本学には人文学部と人間社会学部の2学部があります。

人文学部には日本語日本文化学科、英語コミュニケーション学科、文化学科、があり、人間社会学部は国際社会学科、人間環境学科に分かれ、それぞれ少人数の教室で、経験豊かな先生方からきめ細かな指導を受けています。

それに加えて、欧米、豪州、アジアの大学で国境を越えた数々の国際交流プログラムが行われています。また、現地の人たちの中に入り込み、共に生活しながら、国際社会の諸問題と取り組むフィールドスタディや、農村でのワークキャンプも毎年大きな成果を上げています。

これらの取り組みが、2006年度には「専門性をもった教養教育としての体験学習」、引き続き2007年度には「教養教育としての生活園芸」として2年連続で高く評価され、文部科学省から「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されました。その教育助成金により、更に大きな研究・教育効果をあげつつあります。

このように、ユニークで貴重な知的財産を共有するために、本学の教員が高校に出向いて専門領域についての講義を行います。

この本学からの「出前講義」を受講する高校生の皆さん方が、これにより学ぶことの楽しみを味わい、自己を発見し、大学進学をふまえた将来の人生設計に大きく貢献できることを、心から願っております。



「出前講座」のご案内

1. 目的

本学が有する知的財産を積極的に学外の人々と共有することを目指して、本学専任教員が高校等に出向いて専門領域や関連する今日のトピックについて講義を行います。そして、地域や高校との連携を促進し、高校生の自己発見及び将来の職業選択支援に貢献することを目的としています。

2. 対象

推薦入試指定校、入学実績のある高校、キリスト教学校教育同盟加盟高校、近隣高校など。

3. 講座の形式

- (1) 高等学校の教科（「総合的な学習の時間」を含む）における講座開催
- (2) 高等学校の教科以外の行事（文化祭等）での講演
- (3) 高等学校の職員研修等での講演
- (4) 恵泉女学園大学における模擬授業形式での講座開催（キャンパスツアーも実施できます）
※講座等の時間や内容については、高等学校の実情を考慮し柔軟に対応します。

4. 費用

出張に伴う全費用は本学が負担いたしますので、受入先の負担は一切不要です。

5. 申込方法

- (1) 本冊子巻末に綴じ込みの「恵泉女学園大学出前講座 打ち合わせ書」に必要事項をご記入のうえ、Faxあるいは郵送で下記申込先へご送付ください。
- (2) 「打ち合わせ書」受領後、担当者から詳細をご連絡いたします。
詳しくは本冊子40ページをご参照ください。
※諸事情により日程の調整がつかず、ご希望に添えない場合にはご容赦願います。

6. 講座の打ち合わせ等

講座の具体的な内容は、講師と高校側担当者で十分に打ち合わせを行います。

7. 申込先

恵泉女学園大学 入試広報室
〒206-8586 東京都多摩市南野 2 - 10 - 1
TEL. 042-376-8217 FAX. 042-376-8604
E-mail nyushi@keisen.ac.jp



恵泉女学園大学 出前講座一覧

PAGE

人文学部 日本語日本文化学科

4

どっさりオノマトペ

教授

5

名探偵コナンはなぜ大阪弁を話さないのか？

秋元 美晴

能と『平家物語』

教授

6

祇園祭と中世京都の町衆文化

佐谷 眞木人

詩の世界の魅力——〈朗読〉を通して詩と出会う

准教授

7

川柳(せんりゅう)を作ろう——文芸創作入門

林 浩平

不思議発見!! 日本語の「世界」。

准教授

8

「説得する」ってどういうこと？ 会話を科学する。

川井 章弘

人文学部 英語コミュニケーション学科

9

元気がでる英語。ビデオを使って communication。

教授

10

恵泉女学園大学の歴史を学んで communication。

Fujioka, Ken

Music and Language: English through music for all levels

教授

11

Film for Study: English in movies and English from movies

Quock, Theodore H.

Women's Lives in the World: Albania and Bhutan

准教授

12

Two Women: Hanke and Nalim

Novick, Pamela L.

「気づき」を高める英語活動

助教

13

異文化コミュニケーションを成功させるための基礎知識

村岡 有香

絵本から学ぶ高校英語

助教

14

Nursery Rhymesに学ぶ英語と歴史と文化

大谷 由布子

英語で会話を続けるためのひと工夫:コミュニケーション・ストラテジー

特任講師

15

DVDを使ったスピーキング練習

阿川 敏恵

人文学部 文化学科

17

日本と朝鮮の歴史と文化交流

教授

18

多文化共生社会と日本

李 省 展

異文化の見方が一変する、宗教学の「比較」方法!

教授

19

「観光」から現代文化を考える!

笹尾 典代

東アジアの食文化

教授

20

気思想——陰陽・五行・風水

澤井 啓一

アヴェニューQ、ニューヨークに行こう!——ミュージカルに見るアメリカ

教授

21

メトロポリタン美術館のアメリカ絵画からアメリカの人種、階級、男女関係をさぐる

杉山 恵子

砂糖と英語とノーベル賞の関係

教授

22

夏は祭りだ、祇園だ、「インド」だ

杉山 圭以子

タイタニック——船上のイギリス社会

准教授

23

議会のかたち、政治のかたち

高濱 俊幸

人間社会学部 国際社会学科

25

Becoming an International Person Who Are You?	教授 Da Silva, Dexter	26
アニメの中のお母さん フランス文化とは何か	教授 定松 文	27
水と国際協力：私たちには当たり前の水は、途上諸国では 開発って、何だろう：身近にある資源を活かして一緒に楽しむ	教授 谷本 寿男	28
世界はなぜ「人権」を選んだか：「世界人権宣言60周年」と国際協力 地球環境の危機と先住民族：気候変動が人間の世界に及ぼしていること	教授 上村 英明	29
軍隊って何ですか——韓国若者の兵役と平和 「韓流」が伝えている現代韓国——東アジア文化共同体の可能性は？	専任講師 李 泳 采	30

人間社会学部 人間環境学科

31

土の pH を測ってみよう 植物の養分(硝酸)吸収を調べてみよう	教授 片倉 芳雄	32
心理学の基礎固めとしての“太極拳” 赤ちゃんは頭がいい！—乳幼児期の心理学—	教授 齋藤 謁	33
花の品種改良最前線～あなたならどんな花を咲かせたいですか？～ 植物の性、その驚きの世界	准教授 樋口 幸男	34
心理学について 身体イメージの形成	准教授 喜田 安哲	35
おいしい果物を食べる —消費者と生産者の視点から— 果物の食品機能性について —ブルーベリーは、なぜ目によいのか—	准教授 小林 幹夫	36
環境問題を解決するのは理系か文系か？ エコツーリズムは環境を守り経済を豊かにするのか？	准教授 松村 正治	37
消えゆく植物、変わりゆく風景 ランドスケープ・デザインについて	専任講師 宮内 泰之	38

2009年度 出前講座等実施実績

39

お申し込み方法

40

打ち合わせ書 (FAX送付用紙)

41

日本語日本文化学科

Department of Japanese Language and Culture

日本の古典・近代文学を専門的に学ぶとともに、自ら表現するための能力を養う「文学・文芸創作」。歴史・美術・宗教などの視点から、日本の文化を多角的に学ぶ「日本文化」。何気なく使っている日本語を見つめ直すと同時に、日本語教員をめざす養成課程も用意された「日本語」。この3つの項目から、広く日本語日本文化を捉えていく学科です。

日本語日本文化学科で学ぶこと

■日本語

何気なく使っている日本語を見つめ直す日本人の認識パターンや思考の構図がわかり、それが文化や宗教と深く関わっていることまで見えてきます。日本語を学ぶことは、日本語能力を高めるとともに、日本の文化を見直すことにもつながります。また、外国人に日本語を教える日本語教員への道も準備しています。

■文学・文芸創作

詩や小説を書きたい、自分を表現したい、という希望を持っている人は多いでしょう。でも、いい文章が書けるようになるには、過去のすぐれた表現から学び、言葉のセンスを磨く必要があります。日本の古典・近代文学を専門的に学ぶとともに、実践的な授業によって自ら表現するための能力も養います。

■日本文化

まるで異文化のように感じられる昔の日本文化も、現代の日本と意外に深くつながっています。このコースでは日本文化を、歴史・美術・宗教などの視点から、多角的に学ぶことができます。幅広い基礎知識を学ぶとともに、自分の興味に従って、専門的に知識を深めていくことができます。

秋元 美晴 あきもと みはる
教授

E-mail makimoto@keisen.ac.jp



■出前講座 **テーマ①** どっさりオノマトペ

「キーツと車を止めたが遅かった。ガチャンと前の車にぶつかり、バンパーはペチャンコになってしまった。美穂がドーンと車のドアにぶつかり、パーンとドアが開き、美穂はポーンと車の外にほうり出されてしまった。」この文章の下線のことはすべてオノマトペです。オノマトペを使わないで、この文章を書きなおすとどうなるでしょうか？ 日本語には、どっさりオノマトペがあります。（「どっさり」もオノマトペです）オノマトペはどのような役目を果たしているのでしょうか。他の単語とどういうところが違うのでしょうか。みなさんと考えてみましょう。

テーマ② 名探偵コナンはなぜ大阪弁を話さないのか？

『ヴァーチャル日本語役割語の謎』の中から引用した [問題] です。次の a～h を話す人はどのような人でしょうか。ア～クの中から選んでください。

- | | |
|---|---|
| a. そうよ、あたしが知っているわ。 ()
b. そうじゃ、わしが知っておる。 ()
c. そや、わてが知っとるでえ。 ()
d. そうじゃ、拙者が存じておる。 ()
e. そうですわよ、わたくしが存じておりますわ。 ()
f. そうあるよ、わたしが知ってるあるよ。 ()
g. そうだよ、ほくが知ってるのさ。 ()
h. んだ、おら知ってるだ。 () | ア. お武家様
イ. (ニセ)中国人
ウ. 老博士
エ. 女の子
オ. 田舎者
カ. 男の子
キ. お嬢様
ク. 関西人 |
|---|---|

(金水敏『ヴァーチャル日本語役割語の謎』岩波書店2003)

前置きが長くなりました。名探偵コナンは a～h のどの話し方にちかいですか。なぜ、c の大阪弁を話さないのでしょうか。わかりますか。東京生まれだから？ いいえ、そんな簡単な答えではありません。

■担当科目 教養基礎演習、日本語教育概論、日本語基礎演習、日本語教育実習、日本文化特別演習、卒業論文、[大学院] 多文化共生各論V (言語文化)

■研究テーマ 日本語の語彙、第2言語としての語彙習得

- 研究業績
- * 『よくわかる語彙』(単著) アルク 2002
 - * 『ことばと文化をめぐって—外から見た日本語発見記—』(共著) ひつじ書房 2006
 - * 『日本語教育探求法』(共著) 朝倉書店 2007

- 略歴
- * 青山学院大学文学部日本文学科卒業
 - * 青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻修士課程修了(文学修士)
 - * 青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻博士課程単位取得満期退学
 - * 上智大学外国語学部比較文化学科非常勤講師、恵泉女学園大学日本文化学科専任講師を経て、1997年より現職

■高校等でご用意いただく機器 ビデオデッキ

■出講可能曜日 水・金曜日



佐谷 眞木人

さや まきと
教授

E-mail saya@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 能と『平家物語』

能は南北朝期から室町時代初期にかけて、観阿弥・世阿弥父子によって大成された芸能ですが、そこにもっとも多く素材を提供したのが『平家物語』です。それは、『平家物語』の内容が、当時の人々に親しまれていた証拠でもあります。ただし、能の内容は、滅びてゆく平家一門への哀惜を描く『平家物語』とは微妙に異なり、殺された側の怨念や悲しみを劇化することが多いのです。両者を比較することで、能の演劇的特質や、表現の豊かさに触れるとともに、中世の日本人の精神世界も理解することができるでしょう。また、能とはどのような芸能か、という点もわかりやすく説明したいと思います。

■テーマ② 祇園祭と中世京都の町衆文化

京都で一番盛んなお祭りが、7月の祇園祭です。この祭礼は平安時代に起源を持ちますが、現在の形に整えられていくのが南北朝期から室町時代です。祇園祭では美しく飾り立てられた、様々な山や鉦が祭礼の中心になりますが、そこには古典文学や芸能、伝承などが影響を与えているとともに、中世の町のしくみや、そこに生きた人々の結びつきがあらわれています。この講座では、現在に続く祇園祭の概要と、その魅力を詳しく紹介し、また、祭礼が生み出されていく中世の京都の町についてもわかりやすくお話したいと思います。

■担当科目 教養基礎演習、文学Ⅰ、日本文学史Ⅰ、日本語基礎演習Ⅲ、日本語基礎講読Ⅲ、日本文学演習Ⅰ、日本文学課題演習Ⅰ、日本文学研究Ⅰ、日本文学特殊研究Ⅰ、日本語特別演習Ⅳ、卒業論文、国語科応用演習Ⅰ

■研究テーマ 国文学(中世・近世)、古典芸能史

■研究業績

- * 『日清戦争 国民の誕生』(単著) 講談社現代新書 2009
- * 『平家物語から浄瑠璃へ』(単著) 慶応義塾大学出版会 2002
- * 『柳田国男 日本の思考の可能性』(単著) 小沢書店 1996
- * 『民族の表象 歴史・メディア・国家』(共著) 慶応義塾大学出版会 2006
- * 『寺社縁起の文化学』(共著) 森話社 2005 ほか

■略歴

- * 慶応義塾大学文学部卒。慶応義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(文学)。
- * 恵泉女学園大学専任講師、恵泉女学園大学准教授を経て、2009年より現職。

■高校等でご用意いただく機器 パソコン・プロジェクター(持参可)

■出講可能曜日 月・水曜日



林 浩平

はやし こうへい
准教授

E-mail k_hayashi@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 詩の世界の魅力——〈朗読〉を通して詩と出会う

詩の世界には、なかなか馴染みが無いひとが多いでしょう。しかし、われわれが使う言葉というものが、いちばん不思議なパワーを発揮するのは、詩においてです。詩の表現には比喩や省略がつきものなので、理解するのが難しいという印象を抱きがちです。けれど、詩の言葉を、朗読された声を通して享受してみましょう。言葉の持つひびきやしらべ、つまり「音韻」の要素をしっかりと聴きとって、それからその言葉が導くイメージの世界を頭のなかに展開させましょう。すると、面白いことに、短い詩の行のなかから生き生きとした音楽と物語の世界がたち現れるはずですよ。

この授業では、〈朗読〉による詩の言葉の「読みとり」のレッスンを目指します。

テーマ② 川柳（せんりゅう）を作ろう——文芸創作入門

川柳とは、俳句と同じ5音7音5音の定型を持つ短詩表現ですが、俳句が季節の情緒や人間の気持ちの奥深さを表わすことが主眼であるのに対して、川柳の場合は、季節を表わす季語の約束はなく、その世界はもっぱら世間の欠陥を風刺したり、奇抜な発想で滑稽感を表現したりするものです。ですから、気軽な感じで575と音数を数えながら川柳を作ってみることも出来ますね。たとえば、「こんなの、ありえな—い」という題で、今の世の中に見られる馬鹿げた流行や、本人だけがいい気になってる人物のことをチクリと皮肉でからかってみるのも面白いです。

■**担当科目** 日本語表現（文芸創作）、日本語研究（日本語表現）、日本語基礎演習（文学）、卒業論文演習（卒業制作）など

■**研究テーマ** 日本近代文学研究（萩原朔太郎などの近現代詩の研究が中心）
詩など文芸作品の創作、現代の芸術論

■**研究業績**

- * 詩集『天使』（書肆山田）
- * 詩集『光の揺れる庭で』（書肆山田）
- * 評論集『裸形の言ノ葉』（書肆山田）
- * 自作朗読CD本『やさしい現代詩』（共編著・三省堂）
- * 評論集『生きのびろ、ことば』（共編著・三省堂）など

■**略歴** 東京大学法学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得。東横学園女子短大助教授を経て、2008年より現職。かつてNHKでディレクター、及びNHK総合テレビ番組「ナイトジャーナル」（1993～94年）で火曜日キャスターを務める。

■**高校等でご用意いただく機器** ①ではCDプレーヤー ②は特にありません

■**出講可能曜日** 月・（水）・土曜日



川井 章弘 かわい あきひろ
准教授

E-mail a-kawai@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 不思議発見!! 日本語の「世界」。**

人文科学は、広い意味で、人間が外部世界をどのように見ているかを取り扱う学問です。例えば、日本語の「いる」と「ある」という「存在」を表す単語を例にあげてみましょう。存在するものが「生き物」か「生き物でないか」の違いで、「ある」と「いる」というように区別するのは、全世界の言語の中で、日本語以外に見当たりません。今回、日本語文化が、どのように「外部世界（動物界、植物界、はては人間界）」を切り取り、解釈しているのか、受講して下さる皆さん方と探訪してみましょう。

テーマ② 「説得する」ってどういうこと？ 会話を科学する。

言葉で友だちにしてほしいこと、してほしくないことを伝えたり、依頼や誘いを断ったりという、無自覚的に行われる私たちの言語生活は、何気ないようである、どのように言ったら角が立たないかとても気を使うことが多いものです。今回、そのような日本人の言語生活を戦略的に考えてもらうため、「説得する」ことを素材にして、日本語の会話を、ともに、体系的に考えてみたいと思っています。因みに「あなたは海外留学をしたいと思っています。」。さあ、ご両親をどう説得しましょうか（^o^）。

■担当科目 日本語学、日本語教授法、日本語音声表現 他

■研究テーマ 日本語学、日本語教育（特に談話）

■研究業績

- * 『情報と表現 日本語の表現と技法』（共著）双文社出版
- * 「日本語の発話対一勧誘と応答」 文体論研究48号 日本文体論学会 平成14年3月
- * 「「は」と「が」の混在文について」東アジア日本語教育・日本文化研究学会第九輯 平成18年3月 他

■略歴

- *平成2年3月 青山学院大学大学院文学研究科 日本文学・日本語専攻 博士後期課程単位取得満期退学
- *平成9年4月より 恵泉女学園大学 人文学部 日本語日本文化学科

■高校等でご用意いただく機器

- テーマ①…特になし
- テーマ②…できればパワーポイントの使用可能な教室

■出講可能曜日 火・水曜日

英語コミュニケーション学科

Department of English Communication

グローバル化の進む21世紀において、国境や民族、文化を超えて世界と語り合うことのできる真のコミュニケーション能力を持つ人材の育成をめざし、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を図る学科です。文学や演劇を中心とした英米の言語芸術、英語教員をはじめとして、児童・生徒への英語教育のための知識や技能についても学べます。

英語コミュニケーション学科で学ぶこと

■英語コミュニケーション

実際の社会や生活に即した英語コミュニケーション能力を習得するとともに、通訳・翻訳の理論や方法論を学び、高度な英語表現技法を身に付けることをめざします。

■英語文芸

イギリス文学、アメリカ文学、英米の演劇などを中心に、じっくりと言語芸術を学びます。

■英語教育

中学・高校の英語教師を初めとして、児童・生徒に英語を教えるための知識・技能の習得をめざします。



FUJIOKA, Ken ケン フジオカ
教授

E-mail fujioka@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 元気がでる英語。ビデオを使って communication。**

あなたは英語が話せますか？ 上手になりたいと思いますか？
ビデオを使って上達へのアドバイスをします。

Students will communicate in English by watching a video. On the video, there will be some scenes which you will describe in English. (Don't worry about grammar or vocabulary mistakes! The teacher is very friendly.) You will be able to construct simple English sentences without the use of a textbook or dictionary. Let's enjoy English!

テーマ② 恵泉女学園大学の歴史を学んで communication。

恵泉女学園大学の事を知ってますか？ 分かりやすい英語を使ってコミュニケーション。

Students will learn the history of Keisen by communicating information to one another. You will learn how to manage conversation and also learn new vocabulary. Then you will check to see how much you understood in English. Good luck!

■担当科目

- 1年 教養基礎演習 Introduction to College English Skills
- 2年 英語コミュニケーション実践 American Society through Video / Media Literacy
ゼミナール Japanese American Journey
- 3年 英語コミュニケーション実践 応用 Understanding Cultural Difference I and II
ゼミナール A Closer Look at the Internment of Japanese

■研究テーマ

日系アメリカ人の歴史、留学生の英語

■研究業績

- * A Critical Language Exchange at Tule Lake
- * Language and its Impact on the Nikkei During the Internment Years
- * Motivating Learners through a Study Abroad Program
- * Nikkei Perspectives- Emerging Narratives

■略歴

- * ナイジェリア生まれ。トルコ、日本(小学校)、インドネシア(中学校)、ブラジル、タイ(高校)、アメリカ(大学)。
- * 1980年12月 マリエッタ カレッジ (石油工学)
- * 1986年 5月 サウスウエスタンバプテスト神学校 (神学)
- * 1990年 8月 カリフォルニア州立大学 (言語学)
- * 1990年 7月 ランゲージ インスティテュート オブ ジャパン (日本外語教育研究所) 教師
- * 1994年 7月 ランゲージ インスティテュート オブ ジャパン (日本外語教育研究所) 校長
- * 1996年 4月 国際基督教大学 講師
- * 2000年 4月 恵泉女学園大学 助教授
- * 2007年 4月 恵泉女学園大学 准教授
- * 2010年 4月 恵泉女学園大学 教授

■高校等でご用意いただく機器

テーマ①…ビデオテーププレーヤー & 黒板
テーマ②…黒板

■出講可能曜日 金・土曜日



QUOCK, Theodore Howard セオドア クウォック 教授

E-mail thq@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① Music and Language: English through music for all levels**

Everybody loves music. Many teachers use music in their lessons, most commonly for singalongs, dictation, and background atmosphere. Listening to music is often considered too difficult for lower-level students, but it can be used — not to test listening, but to teach it and other skills. This lesson will show several ways in which students can improve their all-around English skills while enjoying music.

テーマ② Film for Study: English in movies and English from movies

Film can be a stimulating, motivating, and interesting medium for students to study and practice English. The nature of film allows any topic to be brought into the classroom in audiovisual form, with the advantages of replaying, pausing, slow motion, and even closed captioning and subtitling. Movies are long and listening is difficult because of speed, accents, background noise, new vocabulary, and other factors, but selected film clips used the right way can teach language and content, give students practice in communicative skills, and reinforce their love of movies.

■担当科目

1. In general :
Required English for 1st-year students in all departments, required English for 2nd- and 3rd-year students in the Department of English Communication.
2. In 2009 – 10 :
Eigo III, Eigo IV, Eigo V, Communication Jissen (Introduction to Western Humor), Communication Jissen Ouyou (Workshop on Western Humor).

■研究テーマ

My academic area of interest has always been the role of authentic media in language teaching — I have taught courses dealing with music and literature & film, and I have written textbooks utilizing TV news. My current area of interest is Western Humor.

■研究業績

- * Japanese learners of English in the new millennium (2003), Proceedings of the 16th Australian International Education Conference (IDP: Sydney)
- * Observing the effects of the unknown (2005), Keisen Jogakuen University Bulletin Number 18.
- * ISS in-house video worksheets, Levels 1 – 5 (2004 – 2005), Writer & Editor, Work uncredited.
- * The role of humor in the EFL classroom in Japan (2007), Keisen Jogakuen University Bulletin Number 19.
- * Laughing matters: On the theory and teaching of Western Humor, and how it can be utilized in the EFL/ESL classroom (2007), JALT 2006 Conference Proceedings.

■略歴

- * St. Ignatius High School, San Francisco · Graduated 1968
- * University of San Francisco · Graduated 1973, Bachelor of Arts in English
- * San Francisco State University · Graduated 1982, Master of Arts in English (Language Studies)
- * Keisen University, Tokyo · April 1998 - Current (Professor)
· April 1995 - March 1998 (Part-time)
- * University of Tokyo, Komaba Campus · April 1997 - Current (Part-time)
- * Teachers College Columbia University, Tokyo Campus
· September 1990 - Current (Part-time)
- * Meisei University, Tokyo · April 1995 - March 1998 (Part-time)
- * Musashino Women's University, Tokyo · April 1995 - March 1998 (Part-time)
- * Waseda University, Tokyo · November 1994 - March 1995 (Part-time)
- * Keio University, Hiyoshi Campus, Tokyo · November 1994 - March 1995 (Part-time)
- * Simul Academy, Tokyo · April 1985 - October 1994 (Program Director)

■高校等でご用意いただく機器

- テーマ① · i-Podが接続可能なオーディオ端子付きTVモニター
- テーマ② · ビデオプレイヤー、接続可能なTVモニター

■出講可能曜日 金曜日、土曜日の朝、木・日曜日も可能な場合あり



NOVICK, Pamela Lee パメラ リー ノヴィック
准教授

E-mail plnovick@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① Women's Lives in the World: Albania and Bhutan**

In this class, we will use English to learn about women's status in the two countries of Albania and Bhutan. Students will learn new vocabulary, such as demographics or life expectancy, and practice making questions based on a short reading. They will then work in pairs in an information exchange activity designed to use the vocabulary they have learned.

■出前講座 **テーマ② Two Women: Hanke and Nalim**

In this class, we will use English to learn about the lives and daily activities of two specific women: Hanke from Albania, and Nalim from Bhutan. Students will practice asking and answering questions about the women, using new vocabulary and phrases taught by the teacher. They can then ask each other about their own lives or the lives of other women.

■担当科目

(2009 - 10)

- a) 2nd year Seminar, EC Department: Japanese Women — Past and Present
- b) 2nd year Jissen, EC Department: Using English to Explore Child Labor and People who Make a Difference
- c) 3rd year Seminar, EC Department: The World's Women — Issues and Concerns
- d) 3rd year Jissen, EC Department: Using English to Explore Women's Issues
- e) 4th year Seminar, EC Department: Directed Study of Women's Issues Today

■研究テーマ

I am interested in studying the history of American and Japanese women, in particular exploring how education has changed or can change women's lives.

■研究業績

- * "In the Hands of the Ladies: The Founding, and Foundering, of Women's Work for Women in Nagasaki, 1875 - 1880", *Kiyo*, March 2007
- * "To Build a School: Miss Kidder's School for Girls, 1870 - 1875", *Kiyo*, March 2008

■略歴

- * 1972, A.B., Harvard University; History and Literature
- * 1984, M.A., Brown University; Modern History
- * 1983-1986, Teaching Assistant, Brown University
- * 1988-1989, Assistant Professor, University of Maryland, Asian Division, Korea
- * 1988-1989, Visiting Professor, Yonsei University, International Division, Seoul, Korea
- * 1991-1994, Assistant Professor, University of Maryland, Asian Division, Japan
- * 1994-1998, Assistant Professor, Keisen Women's Junior College, English Department
- * 1998-2004, Associate Professor, Keisen Women's Junior College, Horticulture Department
- * 2004-present, Associate Professor, Keisen Women's University, English Communication Department

■高校等でご用意いただく機器 特にありません。プリントを用意します。

■出講可能曜日 後期（9月27日～3月）の月・水曜日



村岡 有香 むらおか ゆか 助教

E-mail muraoka@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 「気づき」を高める英語活動**

英語の学習において「気づき」は大切な役割を果たすと言われていています。自分の弱点や足りない英語の知識に気づくことにより、より高い意識を持って学習を進めていくことができるようになります。気づきはスピーキングやライティングなどのアウトプット活動において特に促進されます。気づきを高める効果のあるさまざまなアウトプット活動への参加を通して、「気づき」を体験してみましょう！英語のみの授業にも挑戦してみてください。

■テーマ② 異文化コミュニケーションを成功させるための基礎知識

違う文化背景を持つ人とうまくコミュニケーションを図ることは、なかなか難しいことです。コミュニケーションでは相手の言っている「意味」を理解する以上のことが要求されます。この授業では、とくに英語話者のコミュニケーション・スタイルに焦点をあて、日本人のコミュニケーション・スタイルとの比較を交えながら、違いを学んでいきます。また、体験学習的な異文化コミュニケーション活動にも参加してもらいます。授業は英語で行います。恵泉で実施されている英語使用による「内容中心の英語授業」をぜひ体験してください。

■担当科目 一般英語および日米文化比較、異文化コミュニケーション論、応用言語学、語用論、英語教育を中心としたクラス

■研究テーマ 第二言語習得研究（「気づき」を高める英語活動）、語用論（発話行為の日米比較）

- 研究業績
- * Muraoka, Y. (2010). Dictogloss, Noticing, and the Acquisition of Past Hypothetical Conditional, *Keisen University Bulletin*, No. 21, 167-193.
 - * Muraoka, Y. (2007). Comparing closed tasks and open tasks: Their effects on the levels of awareness and the acquisition of dative alternation, *JACET Journal*, No. 45, 1-14.
 - * Muraoka, Y. (2007). *Promoting pushed output and noticing of dative verbs through task complexity and task condition*. Unpublished doctoral dissertation, International Christian University, Tokyo.
 - * Muraoka, Y. (2007). Simultaneous attention to complex linguistic forms and meaning during adult L2 learners' input processing. *FLC Journal*, Vol. 3, 31-48. (Jissen Women's University, Foreign Language Center).
 - * Muraoka, Y. (2006). The effect of output and explicit metalinguistic explanation on the acquisition of English articles. *Educational Studies*, Vol. 48, 217-226. (International Christian University Publication 1-A)
 - * Muraoka, Y. (2005). Japanese refusal speech act and gender differences. *Temple University Japan Applied Linguistics Colloquium 2005*, 33-42.
 - * Muraoka, Y. (2003). Compliment speech act and gender differences. *ICU English Studies*, Vol.12, 40-57.

- 略歴
- * 北星女子学園で中、高、大の10年間を過ごす。
 - * M.A. (TESOL) Ball State University, Graduate School
 - * Ed.M. (応用言語学) Teachers College, Columbia University
 - * Ph.D. (教育学) 国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育法
 - * 千葉英和高校専任教諭、東京女子医科大学、早稲田大学、実践女子大学非常勤講師を経て2008年度より現職
 - * 1994~1995 ロータリー国際親善奨学生にてアメリカ留学

■高校等でご用意いただく機器 テーマ①ではCDプレーヤー

■出講可能曜日 月・水・土曜日



大谷 由布子 おおたに ゆうこ
助教

E-mail yukotani@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 絵本から学ぶ高校英語**

文法用語、たとえば「関係代名詞」と聞いただけで、苦手意識を抱く人は多いかもしれません。英語を母語とする子どもたちは、昔から語り継がれたお話を聞いたり、絵本を読んでもらうことで、文法用語としては知らなくても自然とこれらの知識を身につけていきます。実際に絵本を手に取り、声に出して読んでみましょう。

テーマ② Nursery Rhymesに学ぶ英語と歴史と文化

英語を母語話者が幼い頃から触れる童謡の中には、文化があり、歴史があり、ストーリーがあります。またメロディーが耳に残り、心に響くのは何故でしょう。童謡にまつわるお話を歴史や文化の観点から紹介し、Nursery Rhymesを使って英語の発音の練習をします。

■担当科目 英語、児童英語理論、児童英語実践、英作文、英語講読

■研究テーマ 児童英語教育、小学校英語教育

- 研究業績
- * 「Let's Go 小学校英語サポートパックガイドブック」(Oxford University Press, 2006)
 - * 「Let's Go ユニット別テスト」(Oxford University Press, 2002)
 - * 「英語科授業の今日的課題」(共著) 金星堂、1996
 - * A Study of Foreign Language Teaching for Cultural Awareness at Primary Schools in Japan (神戸大学、1996)
 - * A Case Study of Children's Cross-cultural Understanding in Relation to the Target Language Use (JASTEC研究紀要 第15号 pp.13~26, 1996)
 - * English Land 教師用ガイド翻訳 (Pearson Longman, 2005)
 - * Superkids 指導書翻訳 (Pearson Longman, 2004) ほか

- 略歴
- * 1970年 大分県生まれ。
 - * 1996年 神戸大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了。
 - * 日本大学工学部、電気通信大学、青山学院大学の非常勤講師を経て、2008年より現職。

■高校等でご用意いただく機器 テーマ① 特にありません
テーマ② CDプレーヤー

■出講可能曜日 月曜日。水曜日と土日も可能な場合あり



阿川 敏恵 あがわ としえ
特任講師

E-mail tagw@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 英語で会話を続けるためのひと工夫 コミュニケーション・ストラテジー**

いざ英語でコミュニケーションをとろうとすると、何と言って良いか分からず、会話がとぎれてしまうという体験はないですか? 「知っている」だけでなく「使える」英語力を身につけることは、とても大切なことです。この授業では、皆さんが既に知っている表現を使って会話を続ける工夫を紹介します。皆さんが、少しでも英語が「使える」ことに近づけたらと願っています。

テーマ② DVDを使ったスピーキング練習

DVDを使った英語の授業というと、リスニングの練習というイメージがあるかもしれません。この授業ではちょっと趣向を変えて、スピーキングの練習のためにDVDを使います。クラスでは生徒の皆さんにペアになってもらい、授業時間の半分近くは英語で話していただく予定です。もちろん、話すためのサポートはしっかりおこないますので、あまり心配しないで、楽しみながら挑戦してみましょう。

■担当科目 英語、英語現地実習

■研究テーマ 英語教育学

- 研究業績
- * Japanese University Students' Receptive Pragmatic Competence. (共著) *JACET Bulletin*, 40, 117~133. 2005年3月
 - * 『文献からみる第二言語習得研究』(共著) 開拓社2005年7月
 - * 「協同学習を用いた大学授業—自律した学習者の育成を目指して—」『恵泉女学園大学紀要』第19号 2007年3月

■略歴

- * コロンビア大学大学院 ティーチーズカレッジ MA in TESOL (英語教授法 修士号取得)
- * 2005年から現職

■高校等でご用意いただく機器

テーマ①…特にありません。プリントを用意します。
テーマ②…DVDプレーヤー

■出講可能曜日 火・金曜日

文化学科

Department of Trans-Cultural Studies

文化学科では、特定地域に限定しないグローバルな視野で、「文化」を多角的に学びます。さまざまな研究分野に沿って文化の多様性を学ぶ「文化領域」、歴史に沿って文化の形成を考えていく「文化史」の2コースがあります。世界の多様な文化を学び、過去を訪ねる「知の旅」は、自分とは異なる他者を再発見するだけでなく、自分自身をよりよく理解するきっかけにもなるでしょう。

文化学科で学ぶこと

■文化領域

国境を前提とした旧来の地域研究とは異なり、国や民族などの“境界”を超える考え方を重視します。宗教から文学まで、多様な視点から文化そのものについての研究を深めます。

■アメリカ・ヨーロッパ

ルネサンス発祥の地イタリア、伝統文化を大事に育んできたイギリス、多様な地域から人々が集まり新しく文化を築いたアメリカ大陸。こうした文化事情を縦横に探ります。

■アジア

日本と多くの文化を共有する東アジアと、異質に見えながら日本と深くつながってきた南アジア。多彩なアジア文化事情を考えていきます。

■文化史

時の流れの中で、“持続するもの”と“変化するもの”に着目。社会史・美術史・文学史など、文化の多様な側面を時系列に沿って見ていくことで、文化の重層性を学びます。



李省展 い そんじょん 教授

E-mail sj-lee@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 日本と朝鮮の歴史と文化交流

文禄・慶長の役は朝鮮に多大な被害を与えたが、徳川政権の戦後処理と平和に向けた取り組みから、国交は回復され、豊かな文化交流が展開された。しかし残念ながら近代になると、せっかく築かれた友好関係が損なわれてしまった。戦後、日本は南の韓国と国交を結び、最近に至ってはワールドカップの共催、韓流ブームなどかつて見られなかった交流が活発に行われている。高校生にわかりやすく、時系列的ポイントを押さえ、また概説的に日韓関係をふりかえる。

■テーマ② 多文化共生社会と日本

日本には「オールド・カマー」と呼ばれる在日韓国・朝鮮人と、「ニューカマー」とよばれる主としてアジアからの外国人が多数居住している。彼ら外国人が日本社会でどのような困難に直面しているのか？ またどのように生きようとしているのか？ 日本社会の国際化・グローバル化の問題とあわせて、「共に生きる」ということはどういうことなのかを考える。

■担当科目

東アジアの歴史と文化、文化史基礎研究Ⅱ（アジアの歴史）、文化史基礎講読Ⅱ（アジアの歴史）、比較文化論Ⅱ、文化史研究Ⅳ（東アジア）、文化史特殊研究Ⅳ（東アジア）、文化史演習Ⅳ（東アジア）、文化史課題演習Ⅳ（東アジア）、文化学特別演習Ⅸ（東アジアの歴史）、卒業論文〔大学院〕マイノリティ文化特論、文化交流課題研究、文化共生特殊研究、修士論文

■研究テーマ

東アジアの歴史と文化、西欧と東アジアとの文化交流研究、朝鮮近代史

■研究業績

- * 『アメリカ人宣教師と朝鮮の近代』（単著）社会評論社、2006年
- * 『ちょっとヤバイんじゃない？ ナショナリズム』（共著）解放出版社、2006年
- * 『帝国と学校』（共著）昭和堂出版、2007年

■略歴

- * 国際基督教大学教養学部卒業
- * 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士前期課程修了
- * 恵泉女学園短期大学専任講師、恵泉女学園大学助教授を経て、2005年より現職

■高校等でご用意いただく機器 特になし

■出講可能曜日 月・金曜日



笹尾 典代 ささお みちよ 教授

E-mail sasao@keisen.ac.jp

■出前講座

テーマ① 異文化の見方が一変する、宗教学の「比較」方法！

たとえば、『イスラム教は「右手にコーラン、左手に剣」を振りかざして改宗を迫る非寛容な好戦的宗教』というキリスト教世界が形成したステレオタイプは今の日本でも根強く浸透しています。一方『イスラムは、異教徒からは税金をとる代わりにその信仰を容認してきた。歴史的にはむしろキリスト教のほうが暴力的だ』という反論もあります。ではイスラム教とキリスト教、どちらがより暴力的か？これは、おそらく決着がつかない泥沼の比較です。そこで今度は「改宗（布教）の形態」で両者を「比較」してみると…、布教という聖職にのみ従事する宣教師がこれを行なうキリスト教と違って、聖職者を持たないため軍人や貿易商人がそれを兼ねる、いわば一大在家集団としてのイスラム世界が見えてきます。この授業では、私たちが日常に行なっているレッテル貼りの比較が伴う一般通念を突き崩す比較宗教学の方法を紹介しましょう。

テーマ② 「観光」から現代文化を考える！

21世紀は「観光の世紀」といわれています。人類史上古くからある「旅」（トラベル）とは異なり、「観光（ツーリズム）」という形態は、「近代」以降に発生した現象であり、世界のグローバル化とともに社会の境界がますます薄れ、文化が社会の境界を越えて享受される現代という時代の「文化」を考えていく上できわめて有効な切り口です。この授業では、今日、欧米はもとより日本でも人気が高い中南米・カリブ地域の「遺跡・民族観光」に焦点をあて、今日「伝統文化」といわれるものが形成される現場のひとつとして植民地時代を考える視点を提供します。植民地主義は過去ではなく、その延長に成立した世界が現代であり、観光もその植民地主義と深く結びつき、またその結びつきから形成される「伝統文化」を考察します。

■担当科目

教養基礎演習、宗教学、比較宗教論、文化領域基礎研究Ⅰ（宗教・キリスト教）、文化学基礎演習Ⅲ（宗教と生活）、文化領域基礎講読Ⅰ（宗教・キリスト教）、文化領域研究Ⅱ（宗教文化）、文化領域特殊研究Ⅱ（宗教文化）、文化領域演習Ⅱ（宗教文化）、文化領域課題演習Ⅱ（宗教文化）

■研究テーマ

近代民衆宗教研究、アメリカ大陸における文化接触と宗教変容、大航海時代における異文化理解と他者認識、メソアメリカ（マヤ）文化圏の宗教文化史、暦と時間と歴史認識

■研究業績

- * 「メソアメリカの太陽崇拝：アステカ『昼の太陽』の宇宙論」『太陽神の研究（上） 宗教史叢書8』松村一男・渡辺和子編、リトン社、2002年6月。
- * 「マヤの十字架：聖なるイメージのダイナミズム」『世界の民衆宗教』荒木美智雄編、ミネルヴァ書房、2004年1月。
- * 「暦と時間の宗教学的的研究—メソアメリカにおける“暦”の宇宙論的構造と存在論—」筑波大学博士（文学）学位論文、2000年9月。
- * “‘San Simon,’ God Passing Boundaries: Ethnic Identity and Boundary Dynamics in ‘Contact Zone’ of Postcolonial Guatemala” 『恵泉女学園大学紀要』第19号、2007年3月。

■略歴

- * ポストン大学教養学部 [B.A]
- * ポストン大学大学院宗教学・神学研究科修士過程 [M.A]
- * 筑波大学大学院博士過程哲学・思想研究科 [文学修士（宗教学・比較思想学）、博士（文学）]
- * 筑波大学大学院地域研究研究科文部技官
- * 恵泉女学園大学専任講師、助教授を経て、2007年より現職

■高校等で用意いただく機器 なし

■出講可能曜日 月・火曜日



澤井 啓一 さわい けいいち
教授

E-mail ksawai@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 東アジアの食文化**

「食文化」を単純に物を食べることだと考えていませんか？

「食文化」は、何を食べるか（食材）、どのように作るか（調理法）、どんな風に食べるか（食器や食事作法）ということから、農業や漁業といったそれぞれの地域の経済活動や宗教・生活習慣のあり方にまで関わる、とても複雑な文化システムなのです。「食べる」ということは、生命を維持するための「本能的」な行為かもしれませんが、人間はそれを「文化的」な活動に変えたのです。

この授業では、中国・韓国（朝鮮）・日本といった東アジア各地域の「食文化」を取りあげ、その共通点と相違点について学びたいと考えています。

テーマ② 気思想——陰陽・五行・風水

「気」というのは、東アジアの文化や思想を考えるうえで、とても重要な概念用語です。それは宇宙や自然の運行や現象、人間の身体活動や感情などを説明する際に用いられています。したがって現在の学問分野で言えば、物理学や医学といった理科系の学問はもちろん、文学や芸術の領域でも用いられるという、ある種万能な言葉なのです。

この授業では、「気」だけでなく、それと深く関わっている「陰陽」や「五行」についても説明したいと考えています。また最近日本でも流行しだした「風水」についても触れたいと考えています。自然と人間の関わりが見直されている現在、東アジアの伝統的な「自然—人間」観について学ぶことは、とても意義のあることだと思いませんか？

■担当科目 [人文学部文化学科]文化領域基礎研究Ⅱ(文学・思想)、文化学基礎演習Ⅲ(宗教と生活)、文化領域演習Ⅴ(生活文化)、文化領域課題演習Ⅴ(生活文化)、漢文研究Ⅰ・Ⅱ
[人文学研究科文化共生専攻]文化交流研究Ⅱ、文化交流特論Ⅱ(アジア地域圏)、文化交流課題研究

■研究テーマ 東アジアの文化交流、儒教を中心とした近世東アジア思想史、近世・近代日本思想史

■研究業績
* 『東亜儒者的四書詮釈』(中国語訳)(共著) 国立台湾大学出版中心、2005年6月
* 「東アジアの中の徂徠『大学』解釈」(論文) 『季刊日本思想史』第70号、ペリカン社、2007年3月
* 「从“哲学”至“社会学」(中国語訳)(論文) 王青主編『儒教与東亜の近代』、中国・河北大学出版社、2007年10月
* 「退溪李滉と山崎闇斎」(韓国語訳)(論文) 『退溪学論集』第2号、韓国・嶺南退溪学研究院、2008年6月
* 「東アジアにおける日本儒教—共通性と異質性」(韓国語訳)(論文) 『人文学研究』第38輯、韓国・朝鮮大学校人文学研究院、2009年8月 など。

■略歴 早稲田大学文学部卒、早稲田大学大学院文学研究科後期課程中退、早稲田大学文学部助手、恵泉女学園大学人文学部専任講師、1996年より現職

■高校等でご用意いただく機器 特になし

■出講可能曜日 木・金曜日

杉山 恵子 すぎやま けいこ
教授

E-mail sugibei@keisen.ac.jp



■出前講座 **テーマ①** アヴェニューQ、ニューヨークに行こう！
——ミュージカルに見るアメリカ

ニューヨーク、マンハッタンの仮想の通り、Q番街に住む住人が繰り広げるミュージカルを例にアメリカの人種と民族を楽しく学びます。韓国系アメリカ人と間違えられる日系アメリカ人が登場します。わたしたちアジア人はいったいどのようにみられているのでしょうか。私たち自身を考えるきっかけにもなるでしょう。アパートを捜し歩いた末に主人公のブライアンは何をみつけたのでしょうか。

テーマ② メトロポリタン美術館のアメリカ絵画から
アメリカの人種、階級、男女関係をさぐる

愛らしい子供たちを囲む豊かな家族の一枚の写真から19世紀のアメリカ社会を読み解きます。東洋趣味の壺や絨毯はどこから来たのでしょうか。親子関係や女性の地位、遊び文化に影を落とす、人種の問題もみえてくることでしょうか。どうして人々が家族写真を飾りたがったか、画家たちの動きも当時の文化を考える上で重要です。オバマ大統領夫人が陣頭指揮をとって美術館の教育利用を推し進めているアメリカ。あなたなら、どのような教育のために、どのような絵を選びますか。

■担当科目 アメリカ合衆国の歴史、文化史

■研究テーマ アメリカ合衆国の歴史、19世紀

■研究業績 * “Gender and Race in Nursing”, *The Japanese Journal of American Studies*, No.17, Tokyo: American Studies Association, 2006.
* “Poultney Bigelow at the Turn of Nineteenth Century America — Imperialism, Colonialism and Race.” 『恵泉女学園大学紀要』第22号、2010年2月。

■略歴 津田塾大学卒業後、アメリカ、マサチューセッツ州スミス女子大、ニューヨーク州コロンビア大学院で学ぶ。1988年、恵泉女学園大学専任講師、コロンビア大学客員研究員（アメリカ史、1996年）、オックスフォード大学フェロー（アメリカ研究、2008年）を経て、現職。

■高校等でご用意いただく機器 テーマ① 語学学習用CDプレイヤー
テーマ② なし、カラーコピーを配布

■出講可能曜日 火・金曜日

杉山 圭以子 すぎやま けいこ
教授

E-mail skeiko@keisen.ac.jp



■出前講座 **テーマ① 砂糖と英語とノーベル賞の関係**

一見、何の関係もない三つの言葉を並べているようですが、実はそれぞれがきちんと手を結び合っていて、じっと眺めていると壮大な世界史が浮かび上がってきます。タネも仕掛けもありますが、歴史はいつも立体的なだけ。その確信に忠実に飛び込んでくるものを組み立てて、何より歴史を学ぶ楽しさを高校生の方皆さんにお伝えしたいと思います。

テーマ② 夏は祭りだ、祇園だ、「インド」だ

よく自己紹介で「専門はインド史です」などと済ませますが、このインド、どうも人様には相当地に遠いところのようです。それでも、大好きなこの夏祭りを話題にすると、今度はインドが気になってくださって、誰もがソワソワしてくるので不思議です。出前は、祭りのない夏以外のオフでも喜んでお受けします。

■担当科目 教養基礎演習、文化史研究、アジアの歴史、南アジア演習、比較文化論など

■研究テーマ インド近現代史、グローバルヒストリー、人の移動と文化表象

■研究業績

- * 『現代インドの展望』（共著）岩波書店
- * 「多文化主義とセキュラリズム——インドの場合」都留文科大学『研究紀要』
- * 「『ボリウッド映画』を考える」津田塾大学『国際関係学研究』
- * 「バガット・スィング再考」恵泉女学園大学『人文学部紀要』

■略歴 ジャワハルラール・ネルー大学大学院歴史学研究センター、津田塾大学大学院国際関係学研究科を終え、パキスタン国立近代語学院、在インド日本国大使館勤務を経て、恵泉女学園大学専任教員。

■高校等でご用意いただく機器 PC接続用スクリーンとプロジェクターがあれば助かりますが、ご無理であれば、それなりに対応いたします。

■出講可能曜日 火・土曜日



高濱 俊幸 たかはま としゆき
准教授

E-mail takahama@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** タイタニック——船上のイギリス社会

「伝統」の国イギリスは、同時に「階級社会」の国でもある。階級はさまざまな場面で見られたが、船の上にもあった。映画『タイタニック』（1997年）では、ジャックは助からなかったのに、ローズは生きのびた。何故そうだったのか。タイタニック号の事件を手がかりに、イギリスという国について考えていきたい。

テーマ② 議会のかたち、政治のかたち

今日の民主主義社会の基礎には、議会制がある。ところで、議会制の起源はしばしばイギリスに求められる。イギリスの議会制とはどういうものか。また、日本の議会制とどう違うのか。「議会のかたち」を手がかりに、議会制という政治の仕組みを考えていきたい。

■担当科目 イギリスを中心とした文化史関連科目

■研究テーマ イギリスを中心とした西洋政治思想史

■研究業績

[著書]

- * 『英米文化学のこころみ』（共著）彩流社、2000年
- * 『英米文化の光と陰』（共著）彩流社、2001年
- * 『共和主義の思想空間』（共著）名古屋大学出版会、2006年

[論文]

- * 「自由概念をめぐる戦略—ヒュームからウィリアムズまで—」、『思想』901号（1999年）
- * 「パークにおける『思慮の政治』—岸本広司『パーク政治思想の展開』を読んで—」、『政治思想研究』第1号（2001年）

■略歴

1961年、熊本県に生まれる。東京都立大学法学部を卒業後、同大学大学院で修士課程、博士課程を終え、1994年に博士（政治学）を取得。同大学法学部助手、日本学振興会特別研究員を経て、現在に至る。

■高校等でご用意いただく機器 VHSビデオプレイヤー・モニター

■出講可能曜日 月・金曜日

国際社会学科

Department of International Social Studies

政治学、経済学、社会学などに民族、文化、宗教の視点を加えた複合的なアプローチで国際社会のあり方をとらえることができる、「地球市民」を育てる学科です。異なる民族、宗教、経済レベルをもつ国々が共存していくためのルールや政策を考えるのに必要な、国際法や人権、ジェンダー、国際協力についても学べます。

国際社会学科で学ぶこと

■方法論

社会的事象をとらえるための道具として、歴史学、社会学、国際関係論、国際経済学、国際政治学などの理論を学びます。

■グローバルな問題群

貧困、民族・宗教対立、テロに環境破壊。世界は問題だらけです。まず問題を直視します。次に、それらを解決しようとする国境を越えた取り組みを知ります。

■国・地域

多彩な海外研修（長期フィールドスタディ&短期フィールドスタディ）で、教室を飛び出し、自分自身で、関心のある国や地域にふれます。

■語学

世界とコミュニケーションするために必要な語学を幅広い選択肢から選べます（恵泉で学べる外国語＝英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、インドネシア語、タイ語、ヒンディー語、スペイン語、イタリア語）。

■ゼミナール

〈発信者〉として他の人々に適切にアプローチするためのステップです。発表や討論を通じて、リサーチ能力やプレゼンテーションの方法を身につけます。

■三つのテーマ

〈国家と地域〉ヨーロッパで見られる地域統合など現代社会の枠組みを学びます。〈アジアと開発〉アジアを中心事例とし国際協力の重要性和問題点を学びます。〈市民と人権〉人間としての尊厳や権利を守るための市民活動を学びます。



DA SILVA, Dexter デクスター ダ シルバ
教授

E-mail dasilva@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** Becoming an International Person

Do you ever think “I want be international” or “How can I become more international”? What does this really mean? In this lesson we will look at three questions :

1. Who or what is an international person?
2. How international are you? Important characteristics of being an international person - knowledge, skills, attitudes, experience,..
3. What kind of international person do you want to become?

We will work in groups, listening, thinking, sharing and writing your ideas on these questions.

テーマ② Who Are You?

You can answer this question in many ways: your name, age, gender, family background, personality, nationality, religion, hobbies, groups you belong to, likes and dislikes, beliefs, dreams for the future, etc. In this lesson, we will look at many of these, so that you can understand yourself more deeply, talk more about yourself in English, and be better able to make choices about who you want to become in the future.

■担当科目 Previously, various English courses at all levels and all language skills.
Currently, Social Psychology, Educational Psychology, Australian Minorities, Identity, English Teaching Methodology.

■研究業績 Recent Selected Publications :
* *Journal article*
2009 Towards a Pedagogy of Trust. Keisen University Bulletin.
* *Book chapter*
2008 Motivational and Self Goals of Female Students in Contemporary Japan. In *What the West Can Learn From the East: Asian Perspectives on the Psychology of Learning and Motivation*, pp. 191-216. Information Age Publishing.
* *Conference Proceedings*
2007 “Self-Concept: What is it, and why is it important?” *JALT 2006, Kita Kyushu, Japan*.
2006 “Comparing EFL Motivation and General Academic Motivation.” *SELF Research Centre Biennial International Conference, The University of Michigan, United States*.
2005 “Are Japanese University Students Really Unmotivated?” *Australian Association for Research in Education 2005 International Education Research Conference, Sydney, Australia*.

■研究テーマ Issues related to Student Motivation, Trust, and Identity.

■略歴 Born in Trinidad and Tobago, migrated to Sydney, Australia during junior high school.
Bachelor of Arts (Psychology), Diploma of Education (TESOL/Asian Studies), Master of Arts (Psychology), **The University of Sydney**.
Ph.D. (Educational Psychology) SELF Centre, **The University of Western Sydney**.
Travelled around the world for 2 years before working as a counselor and junior high school teacher in Sydney. Taught English at various universities and institutions in Sydney and Tokyo. Have been teaching at Keisen University since 1990 part-time and full-time since 1992.

■高校等でご用意いただく機器 特にありません。

■出講可能曜日 水・金・土曜日



定松 文 さだまつ あや
教授

E-mail sadamatu@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** アニメの中のお母さん

『サザエさん』『ちびまるこちゃん』『クレヨンしんちゃん』『わたしんち』など家族のアニメにみるお母さんは家にいて家事をしています。そして『アルプスの少女ハイジ』や『フランダースの犬』など世界の名作物語ではお母さんがいないなかで子供が育っています。私達の身近なアニメと家族のイメージと実際の統計で見られる家族像の違いをみて、現代における「お母さん」のイメージと現実のギャップの意味を考えましょう。

■テーマ② フランス文化とは何か

フランスといえばファッション、ルーブル美術館やオペラ、ベルサイユ宮殿、フランスパンやフランス料理など、きらびやかで豪華なイメージがあるようです。しかし、ちょっと地方を訪ねてみると、広大な田園や違う家の造りや町並みに気づくはずです。フランスのコルシカ島にはポリフォニーという多重合唱があり、イタリア語に近い言語が話されています。国境と文化の境は一致しないのはなぜか、歴史の旅を試みましょう。

■担当科目 国際関係入門、国際社会学

■研究テーマ アジアの女性移住者とジェンダー再配置
フランスにおける地域と民族問題

■研究業績

- * 「国際結婚にみる家族の問題—フィリピン人女性と日本人男性の結婚・離婚をめぐる」 宮島喬・加納弘勝編『シリーズ国際社会② 変容する日本社会と文化』東京大学出版会、2002年 p.41～68
- * 「グローバル化する社会における主体としての『地域』」 宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『ヨーロッパにおける地域の多層化と変容』人文書院、2007年、p.25～43
- * 「コルシカ『フランス』の鏡に映る自我」 原聖、庄司博史編『世界の先住民族06 ヨーロッパ』明石書店、2005年、p.222～238

■略歴

- * 1996年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻（社会学）単位取得退学
- * 1999年 4月～ 広島国際学院大学現代社会学部 専任教員
- * 2005年 4月～ 恵泉女学園大学 准教授
- * 2010年 4月～ 恵泉女学園大学 教授

■高校等でご用意いただく機器 パワーポイントとDVDを使用するため、プロジェクターとパソコンにつなげるケーブルをお願いします。

■出講可能曜日 火・金曜日



谷本 寿男 たにもと ひさお 教授

E-mail tanimoto@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 水と国際協力：私たちに当たり前の水は、途上諸国では

日本では、水は、日々当たり前に使える資源です。しかし、多くの開発途上の国では、水の「不足」が、食糧生産の大きな制約となり、また種々の感染症の原因となっています。日本には、多種多様な開発の知見と経験があります。開発途上国の人々が、自らの力で、水や食糧、それに起因する貧困といった問題を緩和できるように、水という資源を通して、どういう協力出来るかを考えてみましょう。

■テーマ② 開発って、何だろう：身近にある資源を活かして一緒に楽しむ

開発の成果は、1) 肉体的な充足（健康、人権、安全）、2) 精神的な充足（誇り、尊敬、安心）、そして3) 経済的な充足（明日はちょっと美味しいものを）に示されます。私たちが求める快適さ・便利さなどを満たすために、いろいろな開発が行われています。しかし、これからは、このような“外から・上から”の開発だけではなく、私たちの身近にある資源を最大限に活かして、みんなで一緒に活動していくことの意義を考えてみましょう。これは、開発途上の国々への援助や協力についても当てはまる基本的な考え方です。

■担当科目 ODA論、国際協力論特講、国際協力演習、公的援助論

■研究テーマ ODAと開発、インドネシアの地域開発（有機農法のコーヒー栽培農家への展開）、街の活性化（多摩の団体・人々のネットワーク作り）

■研究業績

- *「開発援助とバングラデシュ」(共著) アジア経済研究所 経済協力シリーズ183 1998年
- *「開発途上国におけるガバナンスの諸課題：アジア経済研究所 経済協力シリーズ203 2004年
- *「コーヒーチェリーの有機肥料化に関する基礎研究」(共著) 恵泉女学園大学 園芸文化 No.4 2007年
- *「コーヒーチェリーかす堆肥による有機農法の農家への展開に関する基礎研究」(共著) 恵泉女学園大学 園芸文化 No.5 2008年

■略歴

- *1948年神戸市生まれ 京都大学農学部、農学研究科（博士課程）修了
- *1977～1999年 海外経済協力基金マニラ駐在員、ジャカルタ次席駐在員、ダッカ首席駐在員、国際協力銀行ジャカルタ首席駐在員を歴任。農業・水資源・農村開発を専門分野として担当
- *2000～2005年 JICA専門家（インドネシア国家開発企画庁、内務省地域開発総局）
- *2005年～ 恵泉女学園大学教授
- *恵泉女学園大学たまたま多摩の会代表、多摩市および浦安市の審議会委員など

■高校等でご用意いただく機器 パワーポイントおよびDVD器具

■出講可能曜日 月・金曜日



上村 英明 うえむら ひであき
教授・平和文化研究所所長

E-mail yuemura@keisen.ac.jp

■出前講座

テーマ① 世界はなぜ「人権」を選んだか：
「世界人権宣言60周年」と国際協力

国際連合が1945年に誕生し、最初に手がけた国際協力に関する仕事は「人権」に関する普遍的な宣言を起草し、採択することでした。そして、その作業は、1948年に「世界人権宣言」として結実しました。なぜ、国連は、開発や環境ではなく、人権を国際協力の最初の仕事として選んだのでしょうか。また、それはどんな意味をもつ仕事だったのでしょうか。「世界人権宣言」が採択されて60年を過ぎた2009年に、みんなで考えてみましょう。

テーマ② 地球環境の危機と先住民族：
気候変動が人間の世界に及ぼしていること

地球環境の危機がまったなしに叫ばれる時代になりました。国際的な会議が世界各地で開かれ、2008年に日本で開かれたG8サミットでも地球環境は大きなテーマになりました。具体的には、北極の氷が解けて白熊の生活が脅かされ、アンデスの高山地帯でも植生が変化してきています。しかし、少し考えてみてください。そこに住んでいる人々はどうなっているのでしょうか。世界各地に住む、先住民族の視点から地球環境の危機を考えてみましょう。

■担当科目

平和研究入門、先住民族・マイノリティ論、NGO・NPO論

■研究テーマ

国際人権法、NGO・NPO、先住民族の権利、国際機構論

■研究業績

- * 『知っていますか？アイヌ民族一問一答 新版』、解放出版社、08
- * 『先住民族の「近代史」』、平凡社、01

■略歴

- * 56年熊本市生まれ。
- * 79年慶應義塾大学法学部卒業、81年早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了。
- * 02年恵泉女学園大学専任教員。
- * 市民外交センター代表、国際人権NGOネットワーク代表、国連改革を考えるNGO連絡会代表、かわさき人権啓発推進協議会会長、アイヌ文化アドバイザー、などを務める。

■高校等でご用意いただく機器 ビデオセット（テープもしくはCD）

■出講可能曜日 月曜日、金曜日午後、土曜日



李 泳 采 い よんちえ
専任講師

E-mail young0822@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 軍隊って何ですか——韓国若者の兵役と平和**

もし彼氏が2年間兵役に行くなら待っていられますか。兵役に行くのに彼女が待ってくれないとどうしますか？ 韓国の若者は徴兵制で軍隊を経験しています。軍隊っていったいどういうところでしょうか。なぜ軍隊へ行って、何を経験するだろう。日本とは違って、憲法上兵役が国民の義務化されている韓国。ほとんどが軍隊を経験している韓国若者の視線から、私と国家、そして平和のあり方に関して考えてみます。

テーマ② 「韓流」が伝えている現代韓国——東アジア文化共同体の可能性は？

『冬のソナタ』のヨン様、『チャンクムの誓い』、『東方神起』など「韓流」はすでに日本の様々なところにすっかり浸透しています。一日1万名、年間約500万名が往来している日韓関係。ところが、日本と一番近いとなりの国の歴史と文化に関して、私たちはどれほど知っているのでしょうか。「韓流」を切り口に日本と朝鮮半島、そして東アジア共通の文化を考えてみます。有名な韓国の映画とドラマ、そして音楽などを使いながら、楽しく語っていきましょう。

■担当科目 平和研究入門、人権論入門、国際人権論、現代韓国朝鮮論

■研究テーマ 戦後日韓・日朝関係、戦後補償、在日朝鮮人の帰国運動、韓流

■研究業績

- * 『なるほど！これが韓国か名言・流行語・造語で知る韓国現代史』朝日新聞社、2006年。
- * 『韓流がつたえる現代韓国—「初恋」からノ・ムヒョンの死まで』梨の木舎、2009年。
- * 「冷戦終結以降の北朝鮮の対日外交—国家正統性と経済協力のトレードオフを中心に」小此木政夫編『危機の朝鮮半島』慶応義塾大学出版会、2006年。
- * 「『日朝不正常関係』と二つの人道問題—帰国者、日本人妻問題の背景と課題」小此木政夫編『北朝鮮の人間の安全保障』慶応義塾大学出版会、2009年。

■略歴 1971年、韓国全羅南道生まれ。98年来日、慶應義塾大学大学院法学研究科卒業。恵泉女学園大学専任講師（98年～）。専門は日韓・日朝関係。日韓の市民団体の交流のコーディネーター、韓国語、韓国映画や映像を通して現代を語る市民講座の講師などを務める。

■高校等でご用意いただく機器 パワーポイントを使用しますので、プロジェクター

■出講可能曜日 月・金曜日 場合によっては土曜日も可能

人間環境学科

Department of Human Life and Environment Studies

経済的な豊かさを優先する現代社会で見失われがちな、人と人、人と自然との豊かな関係を取り戻すための学びを行う学科です。カギとなるのは、心理学、環境学、園芸学。この3領域を自由に横断しながら、新しい学問に挑戦することも可能です。また、実践力を身につけるため、2年生からは少人数制の専門ゼミも始まります。

人間環境学科で学ぶこと

心理学領域

■新しい形の心理学を学ぶ

今揺らぎ始めている親子関係やいじめ、不登校など、現代社会が抱える人間形成の不全や障害に由来するさまざまな問題をテーマに、心理学的・社会的な視点から多角的に考察する領域です。フィールドワークも多く、実際の現場で主体的に学んだ経験を通して自分を広く深く見つめながら考える力や生きる力を養います。

園芸学領域

■園芸を用いて生活を豊かにする方法を考える

植物を育てるといふ園芸の基本を学んだ上で、地域社会における人間関係の構築や環境の改善に園芸を活かす工夫を考えます。また、さまざまな人と園芸を楽しむ時間を共有することで心の癒しを図る、園芸を介した新しい心理療法の開発を試みるなど、生活者の視点に立った新しい園芸学の確立を目指している領域です。

環境学領域

■人間と自然環境の共生の方法を探る

人文科学の立場から地球環境問題を考える領域です。人間が地球の自然環境をさまざまな生物と共有していることをきちんと認識し、共に生きるための方策を見い出し、社会に提案できる道を探ります。例えば、ゴミ処理場や公害に汚染された場所でのフィールドワークなどから環境問題を実践的に考えていきます。



片倉 芳雄 かたくら よしお
教授

E-mail katakura@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 土のpHを測ってみよう**

地球の陸地は土で覆われ、様々な植物や動物の生命を支える基盤となっています。土とは何か？土は何から、どのようにしてできてきたのか、どのような性質をもっているのか。植物栽培のための土壌分析で、第一番に行われるのがpHの測定です。人間で例えると健康管理のための血圧測定みたいなものでしょうか？ pH測定を通して土がもっている性質の一端やpH測定の意味を考えてみましょう。

テーマ② 植物の養分（硝酸）吸収を調べてみよう

植物は土の中から水と養分を吸収して生育しています。私たちは植物の生産物を直接あるいは間接的に利用して生きています。植物は土の中から養分としてどんなものをどのように吸収しているのでしょうか。栄養源である窒素の一つの吸収形態である硝酸について、土の中の動きや植物への吸収について調べてみましょう。

■担当科目 「土と文明」、「水と土の環境論」など

■研究テーマ 「土壌の化学的性質と植物生育」、「有機性廃棄物の有効利用」

- 研究業績
- * 「ブルーベリー樹の養分吸収特性に関する栄養生理学的研究」(博士論文) 1997
 - * 「コーヒーチェリーの有機肥料化に関する基礎研究」(共著) 恵泉女学園大学 園芸文化 第4号 2007年
 - * 「コーヒーチェリーかす堆肥による有機農法の農家への展開に関する基礎研究」(共著) 恵泉女学園大学 園芸文化 第5号 2008年
 - * 「タナ・トラジャにおけるコーヒー栽培技術向上のためのコーヒーチェリーかす堆肥の利用」(共著) 恵泉女学園大学 園芸文化 第6号 2009年

■略歴 1977年3月 日本大学大学院農学研究科修士課程修了、1977年4月から恵泉女学園短期大学園芸生活学科にて化学実験・土壌肥料学などを担当、2005年から恵泉女学園大学にて土や水を中心とした環境関連科目を担当している。

■高校等でご用意いただく機器 化学実験室があれば使用したい、ビデオプロジェクター

■出講可能曜日 月・水曜日



齋藤 謁 さいとう まみ
教授

E-mail mami-s@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ① 心理学の基礎固めとしての“太極拳”**

本学人間環境学科では、1年生全員に教員全員でかわり、「太極拳・ストレッチ・マッサージ」を学びます。これは、心理学を中心として、その後の学問を修めていくための基礎となります。その入門編をお伝えしたいと思います。

テーマ② 赤ちゃんは頭がいい！—乳幼児期の心理学—

乳幼児期に見られる人の発達はめざましいものがあります。そして、この時期の親との関わりの重要性は計り知れないのです。この時期の認知と心の発達を楽しく語りしたいと思います。

■担当科目 「パーソナリティの形成」「対人心理学」「教育心理学」など

■研究テーマ 心と身体の発達とその関係について

■研究業績

- *「子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応①—虐待・心理学的視点から」子どもと家庭の支援と社会福祉 第3巻 第10章 ミネルヴァ書房 2008。2010改訂
- *「カウンセリングの基礎—自分を知ること—」あはき師のための心理学入門 第3章 ヒューマンワールド社 2010
- *「臨床の視点からみる母親・父親・子ども」母性の心理・社会学第3章 医学書院 2004 など。

■略歴

- *明治学院大学・国際基督教大学大学院教育学研究科で心理学を学ぶ。
- *明治学院大学社会学部附属研究所、国際医療福祉大学を経て、恵泉女学園大学人間環境学科に着任。現在にいたる。臨床心理士。

■高校等でご用意いただく機器 特にありません

■出講可能曜日 水曜日(第3除く)・金曜日



樋口 幸男 ひぐち ゆきお 准教授

E-mail higuchi@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 花の品種改良最前線～あなたならどんな花を咲かせたいですか？

もし、あなたが花の品種改良をしたら、どんな花を咲かせてみたいですか？今、この世に存在する多種多様な花の品種も、最初は人々の夢の中だけで咲いていましたが、育種家たちの努力によりそれらは現実のものとなってきました。例えば、青いバラ。咲かせることは不可能と考えられていましたが、2004年7月、サントリーが青いバラを咲かせることに成功したというニュースが新聞の一面を飾ったのです。人々の花に対する情熱と、それを支える遺伝子組み換え等の新技術について考えてみましょう。

■テーマ② 植物の性、その驚きの世界

皆さんは「性」というと、まず動物の雌雄を連想されると思います。そして、植物の性は、動物ほど複雑なものだとは思っていないのではないでしょうか。しかし、植物の性も、よく観察してみると思いのほか多様性に富んでいるのです。例えば、里山に普通に生えているサトイモ科の植物、マムシグサ。この植物は、個体が小さいときは雄花を付け、大きくなると雌花を付けるというように、なんと性転換をするのです。驚きの植物の性の世界をのぞいてみませんか。

■担当科目 植物と栽培、人と植物の関係学、生活園芸Ⅱなど

■研究テーマ 花の品種改良ならびに栽培に関すること

■研究業績

〔学術論文〕 *Higuchi, Y., A. Kitajima, I. Ogiwara and N. Hakoda. The inheritance of primin secretion in *Primula obconica*. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 70 (1): 41-45. January 2001.
*樋口幸男・萩原 勲・箱田直紀. プリムラ・オブコニカのプリミン保有品種とフリー品種の交雑後代におけるプリミン分泌形質の異常分離. 園芸学研究1 (1): 17-20. 2002年4月
*樋口幸男・広戸咲子・萩原 勲・箱田直紀. プリムラ・オブコニカにおけるプリミンフリー品種の組織培養による増殖. 日本農業教育学会雑誌. 33 (1): 19-23. 2002年4月.
*プリムラ・オブコニカ (*Primula obconica* Hance) のプリミン分泌に関する形態学および遺伝育種学的研究. (学位論文) 東京農工大学連合大学院. 2002年3月

〔監修〕 *図鑑NEOシリーズ「飼育と栽培」小学館. 2005年

〔コラム執筆〕 *図説園芸学 朝倉書店. 2006年

■略歴 1987年3月に東京農工大学大学院農学研究科修士課程を修了し、1987年4月から1990年5月まで（株）サカタのタネ茅ヶ崎試験場に勤務。サクラソウ、ニチニチソウなどの品種改良を担当。1990年6月より恵泉女学園短期大学園芸生活学科助手。1993年4月に恵泉女学園短期大学園芸生活学科専任講師を経て、同大学人間環境学科専任講師。2002年3月、東京農工大学連合大学院にて博士（農学）の学位取得。2003年4月より恵泉女学園大学人間社会学部人間環境学科助教授、2007年より現職。

■高校等でご用意いただく機器 特になし

■出講可能曜日 火・水・土曜日



喜田 安哲 きた やすのり
准教授

E-mail ykita@keisen.ac.jp

■出前講座

テーマ① 心理学について

心理学を学べば人の心がよめるようになるのでしょうか。残念ながら、心理学を学んだからといって人の心が手に取るよう分かるわけではありません。では、心理学では何をどのように扱うことで心にアプローチしてゆくのでしょうか。講義では、実際の研究例や簡単な実験を織り交ぜながら、心理学の考え方について紹介してゆきます。

テーマ② 身体イメージの形成

最近の研究では、知覚、記憶、認知、言語、情動など、ありとあらゆる心的機能にとって身体イメージが重要な役割を果たしていることが示されています。講義では、身体イメージの形成とその効果を身をもって体験してもらいます。目を丸くするような発見してもらいます。

■担当科目

「リハビリテーション」「脳と障害」「統計学」など

■研究テーマ

身体運動制御のメカニズム
認知を形成する条件規定関係

■研究業績

- [著書] *『データ分析とSPSS 1・2』北樹出版 2005、2006
[学術論文] *“Two types of movement-related cortical potentials preceding wrist extension in mans” NeuroReport, 12 (10) 2221~2225, 2001
*『感覚記憶におけるトップダウン処理の効果』 恵泉女学園大学紀要 20 2008
[翻訳] *『認知過程のコネクショニスト・モデル』北樹出版 2005 (翻訳)

■略歴

- *東京学芸大学卒業後、国立リハビリテーションセンター学院にてリハビリテーションを学ぶ。
*日本大学大学院文学研究科博士課程修了(博士(教育学))のち本学に着任。

■高校等でご用意いただく機器

パワーポイントを使用するためのPCおよびプロジェクター。

■出講可能曜日 水・金曜日



小林 幹夫 こばやし みきお
准教授

E-mail kobayashi@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** おいしい果物を食べる —消費者と生産者の視点から—

私たちの食べている果物は、国産と輸入物の割合で見ると、今のところ輸入果物のほうが多く私たちの口に入ってきています。そのような状況の中で、私たちがおいしい果物を食べるにはどうしたらよいか。環境の影響や消費者と生産者の見方の違いを踏まえて、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

テーマ② 果物の食品機能性について —ブルーベリーは、なぜ目によいのか—

果物は甘い酸っぱいと味を楽しむだけでなく、色素や食物繊維など果実に含まれる様々な成分があり、それらは、私たちの健康と深い関係を持っています。健康と果物の関係について紹介して行きます。

■担当科目 「園芸と文化」「果樹と生活」「生活園芸Ⅰ」など

■研究テーマ 果樹の栽培・貯蔵性・繁殖に関すること

■研究業績

- * 『ラビットアイブルーベリーの収穫期および成熟期が果実品種に及ぼす影響』園芸学会雑誌 第69巻2000年
- * 『生活と園芸—ガーデニング入門』（共著）玉川大学出版部 2004年
- * 『小果樹類遺伝資源の収集と特性に関する研究』恵泉女学園大学園芸文化研究所報告 第2号 2005年
- * 『個別収穫および房取り収穫したブルーベリー果実の品質』園芸学研究 第8巻 別冊2 2009年

■略歴 * 東京農工大学大学院農学研究科修士課程終了。2005年より現職

■高校等でご用意いただく機器 特になし

■出講可能曜日 月・金曜日

松村 正治

まつむら まさはる
准教授

E-mail m-matsu@keisen.ac.jp



■出前講座

テーマ① 環境問題を解決するのは理系か文系か？

21世紀は環境の世紀と言われます。地球環境問題が大きな社会問題としてクローズアップされたのは、私が学部学生だった頃で、今から20年ほど前のことです。環境サミットは1992年に開催されました。

当時、私は理系の学問から環境問題にアプローチしようと考えていました。その後、環境問題を扱う会社に入り、仕事をしていくうちに、文系の学問も重要であることに気づきました。環境問題を引き起こす私たちの社会について、よく理解する必要性を感じたのです。そこで、20代後半に退職して、文転しました。

環境問題を考えるときに大切なことは何でしょうか？今の私が試行錯誤しながら考えていることを、若い高校生に伝えられれば嬉しいです。

テーマ② エコツーリズムは環境を守り経済を豊かにするのか？

環境を守りながら観光をすすめるエコツーリズム。持続可能な社会を実現するために世界中で期待されています。国内では、2008年にエコツーリズム推進法が施行されました。

しかし、エコツーリズムは万能ではありません。先進的な地域でも、さまざまな問題を抱えています。そうした実情を紹介しながら、これから国内外に広げていくときに、どういうポイントを押さえておくべきなのかを考えます。

■担当科目

環境社会学、持続可能社会論、エコツーリズム論など

■研究テーマ

都市近郊の里山保全活動、沖縄の環境と開発、国境地域の人と物の移動

■研究業績

- * 『島の生活世界と開発 3 沖縄列島—シマの自然と伝統のゆくえ』(共著) 松井健編 東京大学出版会、2004年
- * 『森、里、川、海をつなぐ自然再生—全国13事例が語るもの』(共著) 自然再生を推進する市民団体連絡会編 中央法規、2005年
- * 『火のある暮らしのはじめ方』(共著) 日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン実行委員会編 農文協、2007年
- * 『環境事典』(共著) 日本科学者会議編 旬報社、2008年
- * 『よくわかる環境社会学』(共著) 鳥越皓之・帯谷博明編 ミネルヴァ書房、2009年
- * 『みどりの市民参加—森と社会の未来をひらく』(共著) 木平勇吉編 日本林業調査会、2010年

■略歴

1969年東京都生まれ。東京大学理学部(地理学)、環境コンサルタント会社、東京工業大学大学院社会理工学研究科(社会工学)を経て現職。NPO法人よこはま里山研究所理事長。

■高校等でご用意いただく機器 プロジェクタ、スクリーン(パワーポイントを使用します)

■出講可能曜日 月・水曜日



宮内 泰之 みやうち やすゆき 専任講師

E-mail miya@keisen.ac.jp

■出前講座 **テーマ①** 消えゆく植物、変わりゆく風景

皆さんは秋の七草を実際に見たことがありますか？ススキやクズはあちこちに生えていますが、「ナデシコやキキョウは…、園芸店でしか見たことがない」、という方が大半ではないでしょうか。野生生物の絶滅の危機は、都市から遠く離れた原生林のみで生じている問題ではありません。むしろ、人里やその周辺から多くの動植物が姿を消し、生物の多様性は著しく損なわれつつあります。「自生のキキョウが見られなくても、別に問題ないよね」、果たしてそうでしょうか？その結果、私たちはどのような損失をこうむるのでしょうか？その文化的側面について、風景や景観といった視点から考えてみましょう。

■テーマ② ランドスケープ・デザインについて

京都の西芳寺（苔寺）はコケが敷き詰められた美しい庭園景観で有名ですが、作庭当初はコケが繁茂していなかったといわれています。この景観は自然と人間が長い年月をかけて育ててきた賜物であるといえます。一方、鎌倉のあるお寺では、庭の周りの樹林がほぼ自然のまま遷移してしまったため、庭園内から外部への重要な眺望が失われてしまいました。ここでは、歴史遺産の尊重と自然保護との考え方の違いが大きな問題となっています。例えば、ランドスケープ・デザインとは、このような問題を扱う分野なのです。

■担当科目 「環境デザイン」、「環境デザイン実習」、「生活園芸Ⅰ」など

■研究テーマ 日本庭園の植栽史、庭園デザイン

■研究業績

〔学術論文〕 * 宮内泰之・田畑貞壽「遺存植物体の分析に基づく鎌倉期建長寺庭園の植栽に関する考察」ランドスケープ研究65(5) 431~434 2002年3月

* 宮内泰之ほか「塔の山の植物相および植生管理に関する考察」恵泉女学園園芸短期大学研究紀要36 39~50 2005年3月

* 河原由紀・宮内泰之「夢窓疎石に関わる庭園の空間構成に関する一考察、瑞泉寺と西芳寺を事例として」日本庭園学会誌17: 111~116 2007年

〔学位論文〕 * 「遺存植物体による庭園植栽の復元的分析手法に関する研究」千葉大学大学院園芸学研究科 2008年3月

■略歴

- * 1995年3月、千葉大学大学院園芸学研究科環境緑地学専攻修士課程終了。
- * 1995年4月から2000年3月まで(株)緑生研究所に勤務し、植物相および植生調査を担当。
- * 2000年4月より恵泉女学園短期大学園芸生活学科助手。造園部門担当。2005年4月恵泉女学園大学人間社会学部へ異動。
- * 2008年3月、千葉大学大学院園芸学研究科にて博士(農学)の学位取得。

■高校等でご用意いただく機器 パワーポイントのプロジェクター

■出講可能曜日 火・水・土曜日

2009年度 恵泉女学園大学出前講座等 実施実績

開催日	高校等	所在地	講師/テーマ	名称	対象	受講人数
5月12日(火)	神田女学園高等学校	東京都千代田区	阿川 敏恵「英語で会話を続けるためのひと工夫 コミュニケーション・ストラテジー」	出前講座	1~3年生	18
5月13日(水)	まちだ市民大学	東京都町田市	坂井 誠「グローバル経済と新自由主義」	公開講座	一般	100
6月 3日(水)	吾妻高等学校	群馬県吾妻郡	樋口 幸男「生活園芸(授業体験)」	見学会(本校での実施)	2年生	42
6月 3日(水)	恵泉女学園高等学校	東京都世田谷区	秋元美晴・岩村太郎・漆畑智靖・荒井英子 「各学科の授業体験」	多摩キャンパスツアー (本校での実施)	1年生	187
6月19日(金)	恵泉女学園高等学校	東京都世田谷区	高濱俊幸・堀芳枝・樋口幸男・喜田安哲 「人文・社会・自然・心理」	学問領域解説	2年生	187
6月22日(月)	麻布大学附属淵野辺高等学校	神奈川県相模原市	新妻 昭夫 「ダーウィンのミミズの研究と地球の歴史」	出前講座	1年生	190
6月22日(月)	トキワ松学園中学校・高等学校	東京都目黒区	樋口 幸雄「花の品種改良最前線」	出前講座	中2~高3	30
6月22日(月)	正則高等学校	東京都港区	上村 英明「私が学んできた道」	進路講座	2年生	290
6月23日(火)	青梅総合高等学校	東京都青梅市	「学部学科の学びについて」	キャンパス訪問 (本校での実施)	1年生	5
6月26日(金)	神奈川総合産業高等学校	神奈川県相模原市	「学部学科の学びについて」	キャンパス訪問 (本校での実施)	3年生	1
6月27日(土)	東京文化高等学校	東京都中野区	林 浩平「川柳を作ろう」	出前講座	2年	48
9月24日(木)	花巻北高等学校	岩手県花巻市	藤田 智「『野菜学』について」	出前講座	2年生	134
10月10日(土)	下北沢成徳高等学校	世田谷区代田	藤田 智「『野菜学』について」	講演会	1~3年生・保護者	50
10月16日(金)	明星高等学校	東京都府中市	Theodore Quock「Film for study」	出前講座	2年生	10~20
10月17日(土)	高木学園女子高等学校	神奈川県横浜市	林 浩平「詩の世界の魅力」	出前講座	1・2年生	21
			池上 英洋「レオナルド・ダ・ヴィンチ」	出前講座	1・2年生	25
10月19日(月) 20日(火)	東京文化高等学校	東京都中野区	堀 芳枝「平和研究入門」	キャリアデザイン・トライアル (本校での実施)	2年生	4
10月21日(水)	若葉総合高等学校	東京都稲城市	篠田真理子・山崎正氣・坂井誠 「授業体験」	上級学校訪問 (本校での実施)	1年生	4
10月28日(水)	神奈川総合産業高等学校	神奈川県相模原市	川井 章弘「『説得する』ってどういうこと?」	出前講座	2・3年生	30
2月22日(月)	大和西高等学校	神奈川県大和市	Dexter Da Silva	出前講座	1・2年生	60
3月10日(水)	連光寺小学校	東京都多摩市	谷本 寿男「国際協力がって何だろう -身近なことをできることから-」	特別講義	小学校6年生	81
3月11日(木)	松が谷高等学校	東京都八王子市	Mark Firth「Talking about culture」	出前講座	1年生	80

お申し込み方法

1

本冊子により「出前講座」ご希望の講座・講師をリストアップしてください。



2

次ページの「打ち合わせ書」にご記入のうえ、FAXでご送付ください。
なるべく開催ご希望日の1カ月前までをお願いいたします。



FAX : 042-376-8604

※事前に本学入試広報室までお電話いただければ、概略をご説明いたします。

TEL : 042-376-8217



3

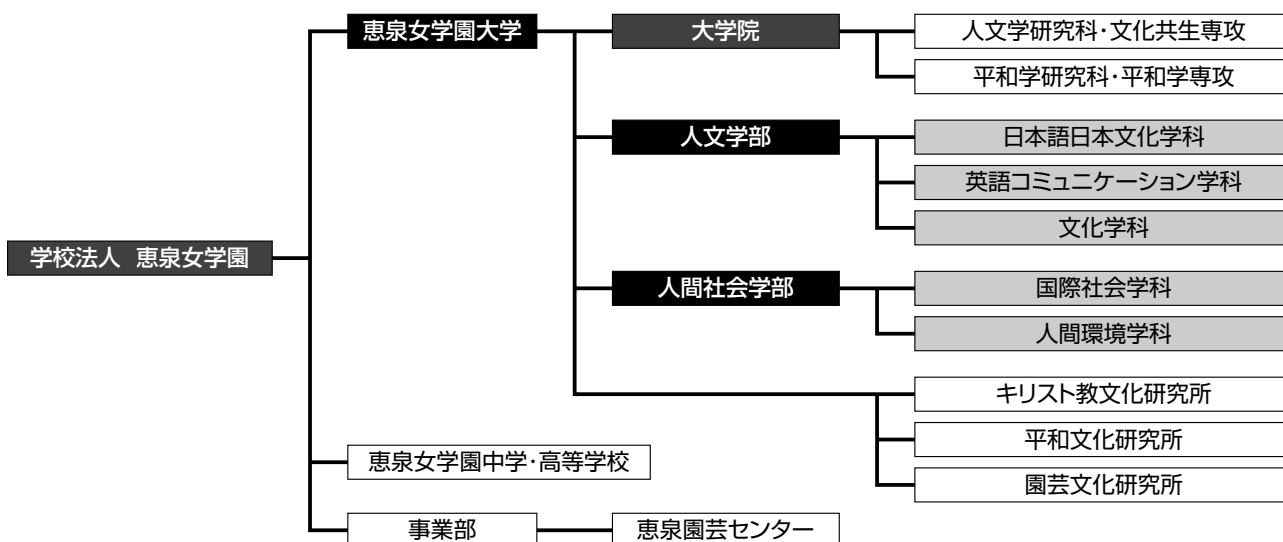
講師のスケジュール調整後、本学よりご返事いたします。



お申し込み・お問い合わせは **恵泉女学園大学 入試広報室**

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL.042-376-8217(直通) FAX.042-376-8604 E-mail nyushi@keisen.ac.jp



恵泉女学園大学 入試広報室宛

FAX : 042-376-8604

恵泉女学園大学出前講座 打ち合わせ書

お申し込みの際は、以下の事項をご記入のうえ、恵泉女学園大学入試広報室までFAXでご送付ください。折り返し、本学よりご連絡させていただきます。

記入日：20 年 月 日

学 校 名			
担 当 部 署			
フリガナ 担当者ご氏名			職名
ご 連 絡 先	〒 -		
	TEL : - - FAX : - -		
	E-mail : @		
予 定 会 場	教室・視聴覚室・体育館・その他 ()		
ご 希 望 日 時	20 年 月 日 ()		
	時 分 ~ 時 分 (分間)		
第 一 希 望	講師名	テーマ	
第 二 希 望	講師名	テーマ	
第 三 希 望	講師名	テーマ	
受 講 対 象	学年： 年生	学科： 科	予定人数： 名
講座実施についてのご要望等			
今後の講座について	今回ご紹介したものの他にご希望のテーマ等がございましたらご記入ください。今後の参考とさせていただきます。		

●お問い合わせ先：恵泉女学園大学入試広報室 TEL.042-376-8217(直通) FAX.042-376-8604 E-mail nyushi@keisen.ac.jp

●ご記入いただいた個人情報については、本学の個人情報保護指針にもとづき、適正に管理いたします。



OPEN CAMPUS 2010

- 無料スクールバス10～15分間隔で運行
- 大学案内パンフレット・入試要項(願書)・過去問題集を無料配布

■オープンキャンパスプログラム *詳しくはホームページをご覧ください。

大学紹介/教育農場ツアー/キャンパスツアー/入試相談(AO入試含む)・個別相談/園芸体験/在学生とティータイム/ランチ体験/模擬講義/フィールドスタディ説明会 etc.

恵泉の学生が主催する
楽しいコーナーも盛りだくさん。
在学生の声が聞ける
チャンスです!

6/27 12:00~16:00(受付11:30~)/入退場自由
プログラムを自由に選択できるアラカルト方式です。「お教えします、正しい大学の選び方!」スペシャル

7/31 **8/8** **8/21** 7/31・8/21=10:00~16:00(受付9:30~)、8/8=12:00~16:00(受付11:30~)/入退場自由
プログラムを自由に選択できるアラカルト方式。AO入試対策講座もあります。

9/5 12:00~16:00(受付11:30~)/入退場自由
決められたプログラムを順次体験していただく固定メニュー方式です。食事はちょっと豪華なバイキング!

10/9 10:00~14:00(受付9:30~)固定プログラム/14:30~16:00オプションプログラム/入退場自由
推薦入試対策スペシャル! 小論文対策講座と推薦入試の面接のアドバイスを行います。

1・2年生も
大歓迎!

12/5 12:00~16:00(受付11:30~)/入退場自由 *13:00からのプログラムの前に学食でランチ体験ができます。
クリスマス&一般入試対策! 1月から始まる一般入試の傾向と対策をお話します。クリスマスリース作り体験も!

5/29 10:00~16:00/入退場自由 **11/6** **7** 10:00~16:00/入退場自由
恵泉スプリングフェスティバル(学園祭) **多摩フェスティバル(学園祭)**

随時受付 **毎日がオープンキャンパス** 平日も土曜日でも来校OK! 保護者の方も一緒にお越しください。
(日曜祝日、夏季休業、年末年始、入試日を除きます) ■土曜日はキャンパスアテンダント(オープンキャンパス学生実行委員)がご案内 ■平日は学食でランチ体験

ACCESS 京王多摩センター・小田急多摩センター・多摩モノレール多摩センター駅下車

スクールバス約8分・無料(キャンパスにお越しの方はどなたでも利用できます)

◎京王多摩センター駅までの乗車時間

新宿駅から最速で28分(調布まで特急または準特急を利用した場合)
市ヶ谷駅から46分(都営新宿線直通の急行を利用した場合)
橋本駅から約10分

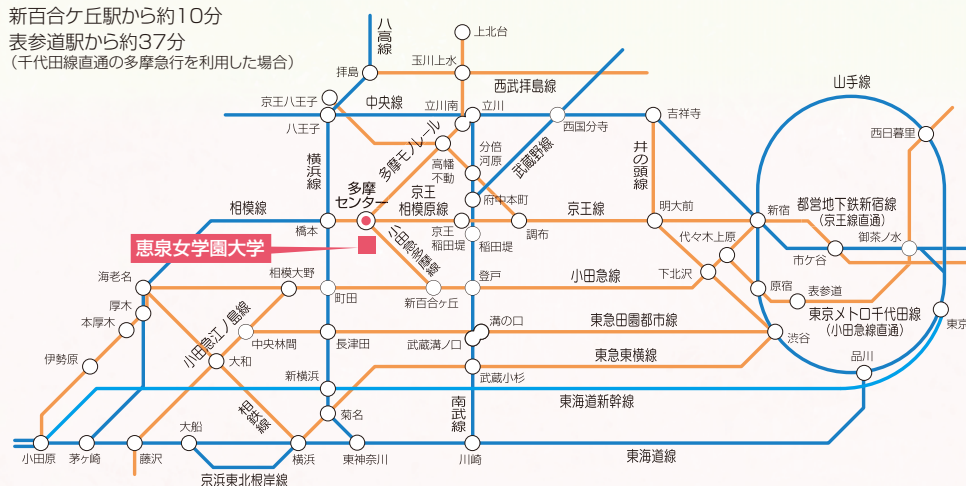
◎多摩モノレール多摩センター駅までの乗車時間

立川南駅から約22分
玉川上水駅から約34分

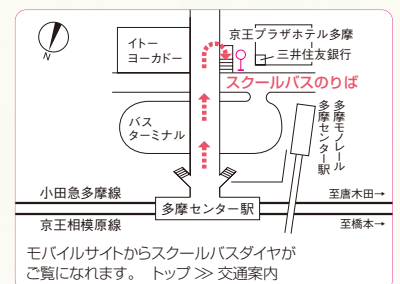
*各駅からの最短距離の乗車時間を表わし、乗り換え等にかかる所要時間を含みません。

◎小田急多摩センター駅までの乗車時間

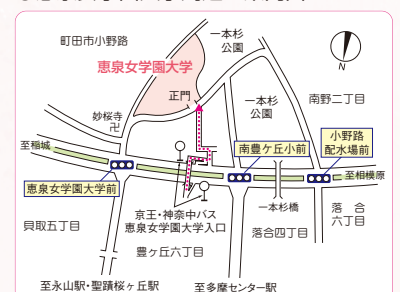
新百合ヶ丘駅から約10分
表参道駅から約37分
(千代田線直通の多摩急行を利用した場合)



◎多摩センター駅スクールバスのりば



◎恵泉女学園大学周辺の案内図



スクールバス運休時は、多摩センター駅路線バス8番のりばから「恵泉女学園大学入口」下車徒歩3分です。

KEISEN UNIVERSITY

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1 TEL.042-376-8217(入試広報室) FAX.042-376-8604 E-mail nyushi@keisen.ac.jp

PC <http://www.keisen.ac.jp>

Mobile <http://www.keisen.ac.jp/m>

